

第10回宇宙安全保障部会 議事録

1. 日時：平成28年2月15日（月） 10：00～12：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、折木委員、久保委員、
白坂委員、鈴木委員、仁藤委員、山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、
行松宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

(3) 陪席者

内閣官房国家安全保障局 内閣審議官 吉田 圭秀

4. 議事次第

(1) 宇宙基本計画工程表（平成27年度改訂）の決定について

(2) 平成27年度補正及び平成28年度当初の宇宙関係予算案について

(3) 平成29年度に向けて検討すべき課題について

(4) 宇宙政策委員会の今後の検討体制について

(5) その他

5. 議 事

(1) 宇宙基本計画工程表（平成27年度改訂）の決定について

事務局より、資料1に基づき、平成27年12月8日に決定された宇宙
基本計画工程表（平成27年度改訂）について説明を行った。

(2) 平成27年度補正及び平成28年度当初の宇宙関係予算案について

事務局より、資料2に基づき、平成27年度補正及び平成28年度当初
の宇宙関係予算案について説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以
下の質問があった。（以下、○質問、●事務局の回答）

○内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のうち、宇宙関連の事
業の割合はどの程度か。（中須賀部会長）

●宇宙関連については、プロジェクト数で見れば半分であるが、予算の観点で

はそれぞれのプロジェクト予算の内数となる。参考資料 11 頁のとおり、宇宙関連の SIP 事業としては、次世代海洋資源調査技術、自動走行システム、インフラ維持管理・更新・マネジメント技術、レジリエントな防災・減災機能の強化、次世代農林水産業創造技術の 5 つである。(守山参事官)

(3) 平成 29 年度に向けて検討すべき課題について

中須賀部会長より、資料 3 に基づき、宇宙安全保障部会において平成 29 年度に向けて検討すべき課題について説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問・意見等があった。(以下、○質問・意見等、●事務局等の回答)

- 工程表番号 6 の即応型の小型衛星等について、平成 27 年度に最新の技術動向等に係る調査を行い、平成 28 年度に運用構想等に係る調査を行うという段取りで検討を進めるとされているところ、現在の進捗状況はどうか。(鈴木委員)
- 現在、本工程表に示されている平成 27 年度の調査を行っているところ。その後、当該調査研究の成果等を踏まえ、即応型の小型衛星等に関する議論を進めて行く考えである。(高見参事官)
- 即応型の小型衛星等は、衛星に機能障害が発生した場合等の代替としての役割も期待されるところ、こうした点も含めて検討を進めて頂けるものと考えている。(中須賀部会長)

- 工程表番号 19 の射場の在り方に関する検討の担当は宇宙産業・科学技術基盤部会となっているが、射場の抗たん性など、宇宙安全保障部会にも関係する議論も想定される。これを今後、どのように取り扱っていくのか。(折木委員)
- 射場の在り方に関する宇宙産業・科学技術基盤部会の平成 27 年度の目標は、論点整理を行うことである。現在、調査の一環として、抗たん性についても検討を行う予定であるが、今後の議論の進め方については、別途、相談させて頂きたい。(山川委員)
- 射場の在り方に関しては、現在、宇宙産業・科学技術基盤部会で議論して頂いている内容を基に、宇宙安全保障部会に検討依頼を出して頂き、議論を進める形が良いと考える。(中須賀部会長)

(4) 宇宙政策委員会の今後の検討体制について

事務局より、資料4に基づき、宇宙政策委員会の今後の検討体制について説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見があった。(以下、○意見)

- 新たに設置された宇宙産業振興小委員会では、安全保障面と民生面のデュアル・ユース技術や、安全保障分野で培われた技術の産業分野での活用などについても議論できれば良いものとする。宇宙安全保障部会からも、各種提言を行って参りたい。(中須賀部会長)
- 現在、安全保障を通じた産業化に係る期待も大きいところ、宇宙安全保障の議論の中でも、産業の話を含めていく必要がある。特に、宇宙産業ビジョン(仮称)の策定にあたり、宇宙安全保障の観点は必要になると考える。(鈴木委員)

以 上